

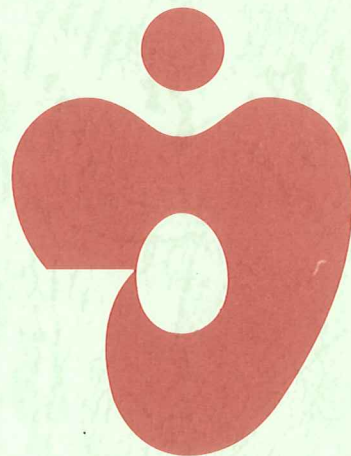
ISSN 1344-7505

# 九州看護福祉大学紀要

The Journal of Kyushu University of Nursing and Social Welfare

Vol. 5 No. 1

2003



九州看護福祉大学

Kyushu University of Nursing and Social Welfare

# 巻 頭 言

## －「紀要」第五巻の発刊によせて－

創刊号の巻頭言に、小林拓郎学長が「看護福祉の総合的發展」に寄与する研究を望むと記されていたが、巻を経るごとに充実しつつあることを喜ばしく感じている。これも偏に田中晴人前委員長を始めとする委員諸兄のお陰だと思っている。本年から編集委員の総入れ替えがあったが、さらなる質向上へとプラス思考で第5巻編集発刊に取り組んだ。

原稿募集を通して多くの先生方とお話する機会を得た。その中で、紀要についての認識が人さまざまであることを知った。“発行部数が少ないので読者が限られている”あるいは“紀要は研究業績にならない”など否定的意見が多いのに驚いた。ご承知のように本学紀要は査読システム導入により論文の質は一定水準に達し、また前委員長の尽力でISSN（国際標準逐次刊行物番号）の取得、医学中央雑誌掲載、医中誌CDデータベースにも収録され、大学図書館等で論文表題と抄録の検索が可能になっている。さらに本年から、国立情報研究所「紀要電子化サービス」への登録により、紀要掲載論文は世界のどこからでもアクセス可能となり、誰もがフルテキストで読める。つまり発行部数や頒布数の問題は紀要電子化により一挙に解消し、読者層の飛躍的拡大によりサイティングインデックスが向上し、紀要は研究業績として公けに高く評価されつつある。

それと引き換えに質の高い研究内容が私たちに求められる。とくに本学の建学理念からも、看護学・社会福祉学教員そして相互の共同研究によりこれからの21世紀を見据えた看護福祉の総合的發展につながる研究論文を数多く世界に向けて発信することが求められている。投稿者本人の努力は勿論だが、他者の協力つまり査読者の適切なアドバイスがその目標に近づくことになる。より一層充実した紀要とするために、今後ともご協力ご支援を心から期待する次第です。

2003年 3月吉日

九州看護福祉大学紀要編集委員会  
委員長 官 澤 文 彦

# 目 次

巻頭言 第五巻によせて 官澤文彦…………… 1

## 1. 論文

総合病院と精神病院に勤務する看護職のメンタルヘルスに影響を及ぼす要因に関する検討  
増田安代…………… 5

軽度発達障害者の就労支援に関する諸問題—新規事業「自閉症・発達障害支援センター」と  
「ジョブコーチ事業」を中心に—  
水間宗幸……………17

RANIGAT- a Buddhist site in the eastern area of Gandhara—From reports of the excavations  
on the sites carried out by the Kyoto University Scientific Missions in 1980s—  
久我篁子……………29

The social and Economic Location of Jazz and Improvising Musicians and Their Music  
Allan J. Sutherland……………39

The mechanisms of nickel uptake by rat hepatocyte primary cultures:  
role of calcium channels  
Takayuki Funakoshi, Takeshi Inoue, Hideaki Shimada, Shoji Kojima……………83

## 2. 研究ノート

中国農村部の五保戸扶養制度に関する考察  
王文亮、揭繼斌、羅衛 国……………93

質的研究方法論の可能性—社会福祉の「原理」と「価値」を考えるための研究方法に  
ついての検討  
衣笠一茂……………107

思春期・青年期保健への若者の参画—若者ボランティアの育成と主体化に向けた支援の  
あり方について—  
久佐賀真理、俵 恭子、大草理美子……………117

面接交渉権を制限する「子の福祉」  
隈直子……………129

戦前障害者政策の生成—視覚障害者教育政策の日韓比較—  
金蘭九……………139

The Mass Movement of Environmental Problems in Thailand  
Manabu Ando……………155

K県A地域における介護保険サービス利用に関する現状と評価  
—居宅サービス利用者に焦点をあてて—  
生野繁子、竹園辰巳……………167

### 3. 事例・実践研究、調査報告

Effect of the new curriculum on the occupational awareness of the nursing students in Sri Lanka

Fumihiko Kanzawa, Masako Sasaki…………177

玉名市の医療施設のバリアフリー水準に関する調査研究—医療施設外来部分のバリアフリー配慮の実態について—

西島衛治…………189

精神病院の中堅リーダー研修会に体験学習を取り入れて

増田安代、東玲子、山本哲生…………197

保育園に通う子どもを持つ親の“子育て生活”に関する満足度と支援ニーズ

緒方妙子…………205

入院児とその母親へ手作りのおもちゃを使用した援助効果について—小児看護実習における遊びの援助を通して—

猪谷生美、増田安代…………215

精神遅滞児と自閉症児における各伝達機能の発達的特徴

李玄玉…………225

介護支援専門員の活動の現状と課題—K県A圏域介護支援専門員支援会議の調査から—

生野繁子、和田要…………233

看護教育における交流分析的研究—看護学生の看護実習における時間の構造化について—

松尾典子…………243

社会福祉援助技術演習におけるリーダーシップのあり方に関する臨床的研究

— 対人援助職のグループワークによる養成に関する臨床的研究 —

益満孝…………257

小児看護演習教授法モデルの開発

二宮球美、山邊素子…………267

小児看護演習教授法—罨法の演習をとおして—

二宮球美、山邊素子…………277

### 4. 展望

患者の自律実現と看護

柴田恵子…………287

研究報告一覧

…………297

「九州看護福祉大学紀要」投稿規程および執筆要領

…………302

編集後記

…………304

## 編集後記

本学教員のご協力をいただき、第5巻を発刊することができました。原稿執筆いただいた先生に編集委員一同感謝申し上げます。お陰さまで、論文数は20数編総ページ数300ページ、また論文内容もこれまでと比べて遜色ないものに仕上がりました。

本学には看護、介護、薬学、生化学、保健、医学、福祉、社会学、心理学、情報学、倫理学、哲学、法学等を専門とする教員がそれぞれの研究領域で、それぞれの体裁で論文を執筆しています。それらの領域の事情をできるだけ尊重した上で統一したスタイルで編集しましたが、整合性はまだ不十分です。次の巻からは、執筆要領に沿うようご協力をお願いします。

巻頭言にも述べたように、紀要は個人のみならず本大学の学術的評価にもつながることから、これまで投稿されなかった方にも次巻以降はぜひ投稿をお願いしたい。また、2003年度から開設する看護福祉学研究科看護学専攻大学院の関係者にも、学術的に質の高い論文が多数投稿されるものと期待しています。

2003年3月

紀要編集委員会一同

### 紀要編集委員（文責）

- 委員長 官澤 文彦（看護学科）
- 委員 藤原 文亮（社会福祉学科）
- 委員 山本 務（社会福祉学科）
- 委員 久佐賀 真理（看護学科）

---

九州看護福祉大学紀要 第5巻 第1号

The Journal of Kyushu University of Nursing and Social Welfare Vol.5 No. 1

2003年3月

発行者 九州看護福祉大学

Kyushu University of Nursing and Social Welfare

〒865-0062

熊本県玉名市富尾888番地

888 Tomio, Tamana City, Kumamoto Pref.

Japan. Zip 865-0062

T E L 0968(75)1800

F A X 0968(75)1811

紀要編集委員代表 官澤 文彦

印刷所 株式会社 ベストパッケージ

〒864-0025

熊本県荒尾市高浜字前1825-20

T E L 0968(68)7710

F A X 0968(68)7713

---